

## 第一回世界都市農業サミット推進委員会

開催日時：平成 28 年 10 月 31 日（月）14：00～16：00

会場：練馬区役所 5 階庁議室

### 1 区長挨拶

- ・ 皆様こんにちは。本日はお忙しいところ、しかも午後の一番忙しい時にお集まりいただきまして本当にありがとうございます。感謝申し上げます。また、今回は、世界都市農業サミット推進委員会の委員をお引き受けいただきまして、あわせて感謝を申し上げます。
- ・ 私は、今までも折にふれてお話してきましたが、練馬区長になってもう2年半になりますけれども、一番目を開かれたのは、都市農業であって、それまではちょっと曖昧な、たまたま残っていたのかなぐらいに思っていたのですが、実際に区長になって、現場を拝見していろいろなことを教えていただき、二つ認識が深化したと思っております。
- ・ 一つは、都市農業というものの持つ意味でありまして、これは多面的機能といろいろ申しますけれども、それはもちろん大事なことです。単に農産物の生産機能だけではなくて、環境、防災いろんな機能がある。それは重要ですが、もっとそれ以上に、もっと大きな歴史的な理由があるんじゃないかなということです。練馬区の日本型の都市形成の中で、ある意味ではたまたま残った面もあるのですが、こういう都市の中に農地が市民生活と融合して生きた形で存在する、こういう形は稀有なのではないかなということに気がつきました。そういう意味では、歴史的、文明史的意義があるのではないかなということでもあります。
- ・ もう一つは、これは、先ほどたまたまと申し上げましたが、実はたまたまではなくて、こういう形で農業が残ったのは、今日お集まりの方々の中にもいらっしゃるが、都市農業にいわば人生をかけて取り組んでこられた皆様方の熱意と努力の賜物であると思っております。この2点について、大変、私は認識不足であったのを教えられた気がいたしております。
- ・ そこで、たまたまこれも国のほうも動きがありまして、ご存じのとおり、都市農業振興基本法ができて、振興基本計画もできて、これまでのように、都市農地を宅地化すべきものではなくて、積極的に残すという方向に国もやっと方向転換してまいりました。もちろん、税制とか都市計画はまだまだでありますけれども、大きな方向としてはそういう流れができた。そうしたら、この流れをさらに進めるためにも、世界の中に練馬区の農業は打って出て、世界の都市農業を進めている都市と連携をして、サミットをやりたいと、それがそもそもの発端であります。これから内容のご審議をい

ただきますが、都市農業の魅力とその存在意義を世界の都市と共有をして、それを世界に発信して、さらに世界の都市農業を発展させ、また、ひいてはもちろん練馬区の農業を発展させ、我々練馬区の都市農業を自信を持って、誇りを持って進めていきたい、そのための一助としたい、そういうふうに考えております。事務局が用意した文案に、都市農業の未来を考えるとということは、都市の未来を考えること、だとありますが、私もそう思っております。ぜひ皆様方のお知恵をお借りして、積極的に世界都市農業サミットの内容を充実し、必ず成功させて、日本の都市農業を発展させていきたいと考えておりますので、皆様方のお知恵、お力が頼りであります。どうかよろしくお願い申し上げます。

## 2 委員紹介

### 3 委員長・副委員長選任

事務局 都市農業課長

- ・ 世界都市農業サミット推進委員会の設置要綱に則りまして、委員会の委員長及び副委員長の選任をします。委員の方から何かご意見はありますか。  
もしないようでしたら、私どもからのご推薦ということでよろしいでしょうか。

〔「いいです」の声あり〕

事務局 都市農業課長

- ・ それでは、事務局といたしまして、委員長に東京大学大学院都市工学専攻の横張真教授、副委員長に武蔵大学経済学部経済学科後藤光蔵名誉教授をご推薦したいと存じますが、よろしいでしょうか。

〔拍手により承認〕

事務局 都市農業課長

- ・ では、よろしくお願いいたします。
- ・ それでは、早速ですが、横張委員長に議事の進行をお願いしたいと存じます。なお、この議事録は、公開となります。あわせてよろしくお願いいたします。
- ・ 横張委員長に一言ご挨拶をいただき、議事に入っていただきますようお願いいたします。

## 4 議事

### (1) 世界都市農業サミットについて

#### 委員長

- ・ 諸先輩方を前にいたしまして大変僭越ではございますが、ご指名でございますので、司会進行役ということでお受けしたいと存じます。円滑な議事の進行にぜひご協力をお願いしたいと思います。
- ・ 今、区長もまさにおっしゃったとおりですが、一時、「都市の中の農地は開発予備地だ」みたいな、大変に荒っぽいことを言われた時期もございましたが、今は恐らく、練馬区にしましても、あるいは日本全体としましても、都市の中に農地・農業が息づいているということに対して、大変注目され、高く評価されており、社会全体の風向きが随分と変わってきているのではないかと実感しております。これも区長がおっしゃるとおりですけれども、国の方でも、都市農業振興基本法と基本計画が策定されまして、しかもこれが農水省と国土交通省の共同の所管になっていると。言い方を変えると、国土交通省までもが都市の地目の一つとして農地を正式に認めたということでありまして、これは制度的にも随分大きな変革期に今あるのではないかと認識しております。
- ・ ところが、世界に目を向けると、私が知る限り、日本のようにきちんと都市の中に農業、農地が息づいているという国は恐らくないと断言しても間違いではないだろうと思っております。確かに欧米の都市にまいりますと、最近アントレプレナー、すなわち新しい起業家たちが農業のようなことを始めているという実態がございますけれども、恐らくプロの皆さんから見ると、ままごとに過ぎないような、これを本当に農業とっていいのかといったような営みであるケースが多々ございますし、一方、途上国にまいりますと、確かに都市の中に農地はあるんですが、多分にゲリラ的というか、場当たりのというか、日本のようにきちんと産業の一つとして、農業が都市の中に息づいていると言える実態とはちょっと違うことが多いのではないかと。そう考えますと、こうした形で農業がちゃんと都市の中で息づいているというのは、世界的に見ても大変に珍しい例外的なことであり、だからこそ、世界にこうした実態を伝えていくということが必要なんだろうと思うのです。
- ・ 世界都市農業サミットは、私の知人もいろんな国にいますが、大変に注目され始めており、ぜひ皆様方のお力をいただきながら成功裏に終わるように、どうかご一緒にこの会を運営いただきたいと思いますという次第でございます。ちょっと長くなりましたけど、以上をもちまして私の挨拶といたします。
- ・ それでは、お手元の議事次第に従いまして入ってまいりたいと思います。ちょうど次第の1から4までが終わったというところで、5番の議事、まず(1)ですけれども、世界の都市農業サミットについてで、これはまず事務局からご説明をお願いしたいと思います。

事務局 都市農業課長

- ・ それでは、資料とイメージの映像、「世界都市農業サミット」に沿ってまいりたいと思います。日本の農業が海外のいろいろなところで話題になっておりますが、今なぜ、世界都市農業サミットか、どうしてこれを区として考えついたかという、その思いを伝えたいという想いでつくった資料です。
- ・ これは、ニューヨークのマンハッタンの写真で、緑はかなり少ないようです。欧米のそのままの都市計画の流れでつくられたのだと思います。農地という形のは、この写真からはなかなか見いだせない状況にあります。しかしながら、同じニューヨークでもブルックリンをお見せします。先ほどのマンハッタンからちょうど 10 キロのところにある街ですが、右側の写真は町並みの紹介です。この左の写真、そして右下のところに、野菜をかこんで家族で和んでいる様子があり、これは屋上です。自分で耕して、そして収穫物を家族で、またみんなで楽しむ、こんな文化がトレンドとして出来始めている状況にあるという紹介です。
- ・ 変わりまして、ロンドンの写真です。よく見る風景ですけども、こちらもいろんな動きがあります。この右下の絵、黄色と赤のマーク、実はこれ市民農園の配置を示すものです。ロンドンは 2012 年にオリンピックを開催しました。2012 年に因み 2,012 個の市民農園をつくらうという、市民からの動きがあり、行政もそれに合致して動いた経緯があります。市の面積は、ちょうど 23 区の 1.5 倍、人口は 23 区全員の人口よりも少ない状況にあります。その中で今、2,012 を越して 2,500 個の市民農園があります。23 区内は、これよりも人口多いですけども、23 区内で 232 個。ですから、この数の大きさは、わかると思います。写真を見ても、例えば左下の写真のように箱庭のようなものも多く、確かに、程度的には小さく簡略で、日本で皆様が考えるような市民農園ではないかもしれませんが。しかしロンドンの市民の、こうやって自らコミュニティを育みながら耕して食べるという、食というものに対する、また自然の保護に対する意識の高揚等、そんな思いが出ていると感じます。右上の写真は水耕栽培であったり、室内だったり、簡略な農園の形のところもありますが、数の多さや、食への想い、市民のニーズというのがわかると思っております。
- ・ さて、練馬区に話を向けたいと思います。右上に東京都の地図があります。練馬区の位置です。都心からちょうど電車でも、また車に乗っても 30 分の地にあります。昔から江戸に近いという利便性があり、車がない時代でも、日帰りで江戸まで農産物を持って行けたという地の利を利用した農業がずっと展開されました。左上に区部の農地面積がありますが、全体の 40 パーセントの農地が練馬にあります。世田谷、足立と続きます。右下には、都内の市街化区域の面積を記入させていただきました。
- ・ 練馬の都市農地、都市農業を紹介するために、昭和 45 年の高松地区の写真を用意しました、畑が多いことが確認できると思います。右は平成 23 年の写真で同じ場所ですが、

環八が整備され、農地は減ったけど残っている、樹林地も減ったけれど、点在している。これが練馬の街だと分かると思います。残っただけではありません。先ほど区長から申し上げましたが、例えば、直売所や体験農園、マルシェ、学校農園などは、ほかのところのイメージ写真もありますが、こういった生きた農業が市民生活に融合する街なのだということをご説明するものです。斜線は、農地・生産緑地です。木のマークは樹林地です。上に森があり、体験農園があり、そしてブルーベリー観光農園があり、その中では農家の皆さん、この地域の皆さんが集まってマルシェを開催する。そして農の学校がある。農地等が保全されている場所がある。農園レストランでは多くの人を楽しんでいる。直売所があって、その左には区民農園、市民農園がある。学校では、その農業を活用した環境教育が行われている。こういった住む人と農地をお持ちの方、農業されている方がつながって、豊かな都市生活ができています。ここは農の風景育成地区になっておりますが、それ以外の地域でも、多くの農家さんと多くの区民がつながった、生活に融合した都市農業が生きている、そこが練馬のまちです。そうしたことから、国連大学などの皆さんが練馬の都市農業を、視察に来ています。ソウルの農業委員会や、ニューヨークの新聞記者の方などいろいろなところから見に来ていただいています。注目されていることを実感する写真です。

- ・ そこで練馬区は、サミットの開催を考えました。
- ・ まず、練馬区には、都市生活と融合してきた農業が存在しています。2番目の四角です。都市農業は大都市における豊かな市民生活に欠かせないものとなっています。そして、この都市農業の魅力と可能性を世界の都市と共有して発展を図るために、世界都市農業サミットを開催するということを計画いたしました。
- ・ ここからは、皆様のお手元に資料としてお渡ししております。
- ・ サミット開催の目的とねらいです。まず一つ目は、都市農業の存在意義や魅力に関する認識が世界で共有され、今後の発展につながること。二つ目、都市農業に関するネットワーク化と情報共有が進んで、新たな取り組みが生まれることです。そして、農業者、そして都市に住む人、皆さんの都市農業に対する誇りと意欲が高まること、これを目的とねらいとしました。
- ・ どうやって開催するかということで、スケジュールの検討に当たりましては、2020年に東京オリンピック、パラリンピックが開催されますが、こちらの開催を控え国際気運が高まる時期が望ましいだろうと考えました。都市農業にかかわることですから、練馬で農産物がたくさんあり、収穫の喜びを分かち合うことができ、農にちなんだ多くのイベントが可能な時期であること。そして、この開催期間は、基本的には3日間ぐらいと。さらに追加の見学等を希望する皆さんもいらっしゃるでしょうから一日加えて、4日ぐらいで対応したいと思います。
- ・ 開催に向けてのスケジュールです。本日、推進委員会の設置がありました。これまでも開催概要や招聘候補国案を検討しており、これからも続けて検討調査していきます。

来年度は詳細の検討を進めて、1年前となる2018年にはプレイベント、そして2019年11月、世界都市農業サミットの開催を計画したいと思っております。

- ・ プログラム案は、会場はメインとして練馬文化センター。練馬駅近くの、1,000人以上の大ホールを持つ会場です。隣のココネリという商業施設、会議室も使います。現段階での予定ですが、11月29日に招聘者が集合し、練馬の都市農業を体験、視察し、夕方にはウェルカムパーティー。次の11月30日午前中は、世界から集まっていた皆さんと招聘された皆さんと一緒に、区民も交えて盛り上がる、参加型の体験イベントがしたい。午後にはそういった体験も踏まえ、また、いろいろな立場の方のお話を伺うためにも、分科会を開き、パーティー。メインとなるのは、12月1日日曜日の練馬文化センター大ホールで開催する事例発表、ディスカッションです。そして、フェアウェルパーティーがあって、2日はオプションという形で考えています。あくまでも、本段階としてのプログラムの案です。
- ・ イベントと並行しまして、各地でマルシェ、また農に関するイベントを実施していきたいです。招聘候補ですけれども、都市農業について特徴的な取り組みを行っている都市、5都市程度を招聘したいと考えております。そして各々の都市からは、行政関係者、農業者、関係団体、研究者2～3人程度の招聘となるかと考えております。また、この開催期間中、パネルを使った紹介や、マルシェ等の開催を考えております。
- ・ 最後になります。このサミット開催の成果・効果です。まずは農業・食関連産業として新しい都市農業の提案ができればと思っています。新しい価値が加わる新しい都市農業の提案です。そして、都市、土地利用制度、新しい制度の提案、時代の要請に応えたもの、豊かな生活を実現する都市像の提案ができればと思います。最後、新しいライフスタイルの提案です。都市農業への関わりを通じて、区民、市民の皆さんが国民の皆さんが、そして世界の都市の皆さんが、都市農業と関わった生活の豊かさを体感できる、そういったライフスタイルの提案を、このサミットを通じてやっていきたいと思っております。以上が資料の説明です。

#### 委員長

- ・ ありがとうございます。事務局より、世界の都市農業サミットにつきまして、概略といたしますか、今の段階での構想についてご説明いただきました。何か質問はございますか。

#### 委員

- ・ この世界都市農業サミットとは直接関係ないのですが、今の資料で、ロンドンの市民農園が2012年に2,012個つくったというのがあり、今では2,500個あるということですが、外国の都市は、いわゆる城壁都市でできていると思いますが、ああいった市民

農園がまだできるような用地はまだあったのでしょうか。

#### 委員長

- ・ 実はつい一か月ほど前にロンドン行ってまいりまして、現地を見てきたのですが、まずいわゆる分区園としてのアロットメントというものがあって、これはもともとロンドンのボローごとに一定程度設置しなさいという制度のもとで設置されてきました。これはもともとあったものです。ところが、それは全然需要に対して数が追いついていない。ウエイティングリストが20年分ぐらいあり、全く数が追いついていないんです。やっぱりこうした市民農園的なことをやりたいという人たちはそれだけ多いということです。その一方、ロンドンの東側のほうへ行きますと、もともとの工業用地で、工場が移転して空き地になると。こういうような土地が種地になっていたり、あるいは先ほどのご説明の中にもありましたが、屋上であったり、さらには四つ角の辻のところのちょっとした空き地とか、こういう大小様々なちょっとした土地っていうのを種地にしまして、そこに整備された農園があり、全部で2,000カ所以上が整備されています。このリストに挙がっているところを私どもも随分見て回ったのですが、プランターが幾つか置いてあるだけのところもいっぱいあります。他方では、先ほど言いましたように、工場が移転した跡地の何にも使われてなくて、下手をするとスラムになるようなところを、地元でNPO等が整理して農園のようにしているところもある。いろいろなタイプが混ざっていると思うんですね。

#### 委員

- ・ ありがとうございます。

### (2) 意見交換

#### 委員長

- ・ ほかにご質問等ございますか。よろしいですか。
- ・ それでは、せっかく、今日は初回でございますし、若干ご欠席の委員の方もいらっしゃいますが、ほとんど全員の委員の方がご出席いただいておりますので、自己紹介プラス、この世界都市農業サミットに向けての想いといたしますか、期待といたしますか、お一方ずつお願いできればと思います。それで、私の時計でちょうど2時半ですので、今20名ほどの委員の方がいらっしゃっていますので、お一方、3分以内ということで、自己紹介を兼ねたお言葉を頂戴したいと思います。名簿順でお願いします。

#### 副委員長

- ・ 先ほど区長さんからもお話がありましたように、私は今度できた都市農業振興基本法と基本計画の特徴は、二つあると考えています。一つは区長さんもおっしゃったよう

に、今まで必要じゃないと言われていた農地、農業を、都市に必要なものだとして位置づけたことです。もう一つの大切なことは、生産緑地は、決して都市の中の農業生産を位置づけた法律ではなかったわけです。防災機能、緑の機能、それから将来に渡っての公共用地の種地としての保全機能、その三つから保全する農地を位置づけた法律であり、基本は無くすという上に、そのような機能を果たすのであれば、無理やりのような農地を転換させることをしないというものでした。これが都市農地の位置づけの現段階だったと思います。今回の都市農業振興基本法と基本計画を読むと、都市の中になぜ農業が必要かということ、農業生産を通して農産物を供給すると同時に都市に必要なその他の多面的機能を発揮するからだと思われることが書いてあります。農業生産機能をきちっと位置づけたということが、非常に大事なことだと思っています。今まで都市農業の先頭を走ってきた練馬区が、新しい位置づけの中で、さらにどういう都市農業をつくっていくのかを先頭に立って考えていく課題が練馬区にはあるのではないかと思います。私は一言でいうと、計画的に農業を位置づけて残していくということが、今後の都市農業の新しい課題と思っていますが、このサミットが練馬区における新しい都市農業展開のきっかけになるように、役に立つことがあればきちっと果たしていきたいと思っています。以上です。

#### 委員

- ・ 私は「世界都市農業サミットをやるなんてすごいことを考えたな」というのが最初の印象です。今、後藤先生がおっしゃったように、やっぱり練馬というのは、体験農園発祥の地でもあるし、そういう今までみんなが気がつかないようなことをやる、そういう農業者が住んでいる素晴らしいところだなと認識していました。なぜそういうふうになったかと考えると、やはり、農業を、特に都市の中の農業を取り巻く税制がものすごく厳しい、それを何とか打ち破りたいという農業者の必死の思いが、体験農園という形で実を結んだ。そして、それに地域住民の人たちが、そういうものを求めていたということが、体験農園が全国に広まったということではないかなと思っています。そういう中で、我が国は、地方は残念ながら人口がどんどん減少しています。東京はまだまだ人口が集中しています。なぜならば経済が活性化、活力がある地域だからですね。そういう中に、やはり人間の心を癒す、緑、農業、農地、そういうものがあることが、ここで働く人たちに心の潤いを与えるのです。やはりそういう意味では、私は農業というのは、経済発展の礎にしようなんていうのはとんでもない話で、人間が生きるための原点が食・農業なのです。私はそういう意味で、農業を成長産業にしなくてもいいから、本当にいつまでも続く持続可能な農業をつくる、そういうことをしっかりと世界に訴えるいいチャンスだと思っていますので、ぜひ協力していきたいと思っています。以上でございます。

## 委員

- ・ 今、先生方と会長がお話しされましたが、練馬の農業はどうやって守ってきたのかという中で、やはり我々はそれほど大それたことを考えてなかったわけですね。やはり、先祖から受け継いだものをしっかり守るという意識の中で、まず守ってきたというのが事実でございますし、そういう中で、なぜ農業をやるかっていうことを考えたときに、家業だからという一つの形があったわけです。ただ、やはりそういうことをやっているうちに、そこに周りに集まってくる方たちが、「ここに畑があってよかったね」というのが多いわけです。うちなどでも、やはり道路の反対側に建売ができて、来た方が言うのは、2階から見ると、ここは開発されそうもないし、やはりうちは植木なんです、四季折々の花が咲いて、いつも楽しめるということを言われたわけです。そしてまた、そういうものが一つのきっかけになって、近所との交流みたいなものも出てくるわけですが、特にこの世界都市農業サミットをやるに当たって、先ほど紹介があったロンドンのことも考えますと、やはり練馬にももっと市民農園のようなもの、区民農園のようなものをつくってもいいのかなと。その中には、今まだ練馬は人口が増加していますが、当然、将来においては人口減少になってくる、そして今でも学校の統廃合等が起きて、いろんな形でそういう公共用地など、そういう場所が多くなってくる。ですから、この中で、2年後には逆にそういうところを区民農園として開放できるようにし、練馬では、区民が自分たちでつくった農園というものを一つのきっかけにできればと思っております。先ほど、体験農園の話がありましたが、それ以前にも、練馬には昭和40年代から区民農園があるのです。それはやはり我々の大先輩である、JA 東京中央会の加藤源蔵会長が、区民農園というものをつくって、開放していたってということもあります。そういうものも含めると、これからはやはり区民の皆さんに、いかに農業に親しんでいただくかという、逆に言えば、学校農園、学童農園とか、そういうものをどんどん広げていき、食農教育等の中で発展させていくというのは、これからの都市にあるべき農業というものの姿をもう一つつくっていくべきと思うんですね。それが今回の都市農業サミットのきっかけになれば、やはり区民の皆さんが楽しめる場所、そして求めるもの、そういうものが一つになっていけると思いますので、ぜひこれを成功させて、都市農業というものを将来に結びつけられるとありがたいと思います。当然、時代がこれから50年、100年経てば、また当然、状況も変わると思います。やはりそれは歴史の検証であって、その時々どういうものをつくっていくかというのがやはり一番必要だろうと思いますので、そういうことを私の中で考えておりますので、ひとつよろしく申し上げます。ありがとうございました。

#### 委員

- ・ この農業サミットは、私は、もっと自分たちに近い内容と思っておりました。世界に発信していく農業は大切ですが、もっと近場のものと考えてきており大変申し訳ないと思っております。
- ・ 練馬区は、先ほど須藤会長、榎本組合長が言ったとおり、農業体験の多い場所であり、一般の人、市民や区民の人たちも、野菜について、育てて、食べるまでが食育となります。そのことについて私たちはいわば野菜をつくるという最初の原点にいるわけですから、野菜をつかって、本当にみんなに理解していただけるということが、自分の気持ちだったわけです。この世界農業サミットについて、大変失礼ですがまだ自分の考えが決まっていません。私も、この世界農業サミットについては協力したいと思っておりますので、これから考えていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

#### 委員

- ・ 私は金属、ステンレス、自動車とか電気とかいろんな分野の部品をつくり、そういう商売をしています。また、練馬区の産業連合会としていろんな産業の人たちによる団体のまとめ役をやっています。農業関係とはいろいろ参考の意見を聞きながら協力し合っています。この会議の委員になることの話があり、「ものすごい農業のサミットなのがいいのかい」と区の方に言ったのですが、「別の立場でサミットに関わってほしい」とのことだったので、参加したわけですが、ものづくりの立場で考えていることなら言っていきたいです。品質管理とか環境とかいろいろありますが、そういうものが役立つものがあれば、できるものを生かしていきたいと思います。
- ・ 先ほど、中央会の会長さんがお話ししていましたように、我々、小売ですと、すぐものづくりをして、世界に輸出しようというような魂胆があり、そうでないと、やっていけません。要は、まず、つくって商売をするのではなくて何をどうしていくかというお話だと、まさに私はちょうどその分野です。やはり何をつくっても環境が大事だと思います。環境を整えるということは、今問題になっている二酸化炭素をどう削減するか。やっぱり空いている土地、あるいは農業者さんと一緒になって、要は緑を大切にしたいということです。緑を見ると気が休まります。我々の会社へ行ったら、工場機械を見たり、コンクリートを見ても全然休まりません。やっぱりちょっとの土でも鉢植えでも非常に健康にいいですね。だから、緑というのはとても大切なのです。それをベースに環境を整えながら、我々も、ものをつくって世の中に出て買っていただくのです、こんな嬉しいことはありません。やはり皆さん、農業を勉強して、また農業をやっている以外の方も関心を持っていただいて、ものづくりして、その喜びや楽しみ、そのときには「いいな」となって、よそからも、23区からも練馬区へやってくる。あるいは、海外の方も参考にできると思うのです。そういうようなことを地道にやっていくことがいい。まず環境を考えながらやっていくことがいいと思います。以

上です。

#### 委員

- ・ 今、先生方のお話をお聞きしましたが、私もかつては協同組合の一員としてお世話になっていました。昔、練馬は本当に、春はひばりの鳴くのどかなところでした。戦後70年以上経って、練馬区も来年は独立して70年ということでもあります。当時、住宅政策という大きな課題解決のためにどんどん環境が変化して、農地改革という大きな改革の下に宅地化がすすみ住宅がどんどん建ちました。私は今、環状八号線の淵に住んでいるのですが、道路を隔てた反対側に当時、興安丸で海外から引き上げてきた方が農地を潰して宅地化し、都営住宅用地を造った、という話を聞きました。戦後、練馬の農業というよりも畑がどんどん潰されてきた。今でもまだ道路づくりが進んでいるというような環境の中で、何とか練馬の農業を安心してできる、また皆んなに喜んでもらえるような環境をつくっていかうとで世界都市農業サミットが取り上げられたということは、大きな意味があると思っております。区民農園にしても何にしても、そこに参加している方は喜んでやっておられる。反面、風が吹けばどうだとか、雨が降ればこうだとか、いわれる方もおられる。やはりいろんな方がおられることも事実ですね。いずれにしても、皆でこれから農業を支えていく、そしてまた、いつまでも続けていくということになることが一番大事だろうと思っております。国の農業に対する考え方も変わってくればいいと思います。ぜひ、世界都市農業サミットを成功させたいと願う一人であります。よろしく願いいたします。

#### 委員

- ・ 農家レストランをやっています。ちょうど今年で20年になりまして、つくった当時、本当にもう東京には農地や農業はいらぬ時代でございまして、そんな時、私どもの野菜とかそういうものはどうやって売っていかうかと考え、今のレストランができたんです。農家レストランをやろうなんていう大それた気持ちじゃなかったんです。自分の野菜が売ればいいという気持ちでつくったのが20年前でございまして、今、改造しているのですが、20年前と今ではまるっきり価値観が変わりまして、どのようになったかという、ただ野菜を売ればいい、新しいものを売ればいいというような時代は、もうとうに過ぎた。やっぱりお客様は、楽しく知的欲求をちょっと満足するようなレストランじゃないと興味を持ってくれない時代なんです。そんなところで大変苦労しているところでございます。
- ・ それと、今年私どもの高松だけでマルシェをやったんです。高松という、大きな単位じゃなくて、その下の昔のあざ名の「若宮」の単位だけでやったんです。マルシェの連絡網というのは、昔ありました江戸時代の組合制度の人間関係です。そんな形で農家を集めまして、13軒で今回、幸いにまだ農業をしている方は多いので、マルシェを

やった次第です。今回思ったことですが、まず、ものを売るのに、売れるような大きな農家はいいんですが、5 畝ぐらいの農家をどうしていくか。やっぱり仲間に入るのは、こっちから手を差し伸べないと入ってくれない。5 畝だからといって変なものを作っているわけじゃない、いいもの作っているのです。それをどのようにしてお客様にお渡しできるかというのが、これからの課題だと思う。大きな農家は、黙っていても農業をやっていくと思うのですが、その5 畝ぐらいの農家をどういうふうに手助けしていくかというのが、今回マルシェやってつくづく感じた次第です。そういうところが大切じゃないかな。人間関係の大切さを感じた今回のマルシェでした。今年もまた11月の第2週にやらせていただきますけれども、幸いにみんな、50代40代30代もいます、これから、どうしようか、という話をしているところです。どうも失礼いたしました。以上です。

#### 委員

- ・ 今回の世界都市農業サミットということで、いろいろ農業のことを客観的にいろいろ評価して、農業の魅力だとかそういうことを実際に評価されているようなこういう会議を初めてやらせていただきまして、私たちは、普段は下を向いて仕事していますので、なかなか周りがよく見えないような感じで、この世界都市農業サミット、本当に我々のやっていることが、本当に魅力あることなのかどうなのかというところで、非常に不安だったのですが、こういう会議をやる中で話をしてみて、やはり我々のやっていた農業は間違いじゃなかったと。この魅力を広くアピールしていきたいという感じを今改めて持っている次第です。
- ・ 今、私、練馬区とのいろいろ事業をやらせていただきまして、今度11月5日にはマルシェですとか、いろいろやるんですが、今、一番面白いのが、農の学校というところで、江戸東京野菜の栽培講座を今やっています。二十数人ぐらいの講習生で。もう3回やり、公募で二倍ぐらいの倍率なんですけども、知らない人たちが集まって、これが非常に回を重ねるごとにみんな仲良くなってきて、広い農地の中で農業を実際に、私は喋っているだけなんですけども、一般の方が実際に土を触ったり、収穫をしたり、収穫したものをみんなで山分けして持ち帰ったりとか、そういうことをいろいろやっているんですけども、そうすると心が豊かになるというか、皆さんの参加している顔がどんどん笑顔になってきて、やっぱり都市農業というか、農業の本当の魅力なのかなと思います。一つ一つの作業を一々説明するわけですよ。そうすると、最初は時間がかかっていたんですけど、3回目にやったときは、2時間の作業の予定が1時間ちょっとで終わってしまいまして。どうしようかなと思っていると、皆さん農業をやる気満々で来ているんですね。そういう魅力をもっと発見すること、農業の可能性みたいなものがいっぱい眠っているんじゃないかなと思います。そういうようなことを少しでも多く発信して、このサミットのために私ができること、アイデアを含めて協力

していきたいなと思っておりますので、よろしくお願いいしいしたいと思います。以上です。

#### 委員

- ・ 畑の面積は1反にも満たないような小さな畑ですけども、そういったところを生かして江戸東京野菜や西洋野菜、周りであまりつくられてないようなものを主に栽培して、マルシェへの参加などをしております。
- ・ またそのほかに、畑の隣が保育園ということで、年間を通じて収穫体験を行っておりまして、ちょうど来月は、練馬大根の引っこ抜きを行う予定です。畑だけではなく、西東京市ですけども、そちらのNPOさんと一緒に空き地を利用した野菜づくりを行っていきまして、そちらの畑では、近くの保育園の子たちやデイサービスの方たちと一緒に野菜をつくっております。つい先日、みんなで芋掘りをしまして、ちょうど来週、芋を茹でようという計画をしております。なかなか練馬区だと、そういった空き地とかなかったり難しいかもしれませんが、中にはずっと使われてないような代替地とかそういったのもあると思うんですけども、そういったところを利用して、市民の方、区民の方と一緒にできるのも都市農業の一つとなるんじゃないかなと考えております。以上です。よろしくお願いいいたします。

#### 委員

- ・ 私は平成8年に農業体験農園を開園して、今年で21年目を迎えてまして、大変大勢の区民の方と、この体験農園を通じて関わってまいりました。一昨日は私どもの収穫祭で、利用者の方々も楽しみにしていて、150名ぐらい集まって賑やかに開催しましたが、そのときに利用者の方たちといろいろ話していると、農地に入って自分で野菜づくりをすることでいろんなことが見えてくる。特に、食に関することですね、深く感じている方が非常に多いです。今回のこのサミットは、農家もそうですけども、いろいろ感じている区民の方に発信してもらってことも大事なのかなというふうに思っております。
- ・ もう一つは、この都市農業サミットを開いた場合に、海外の方が練馬区内の都市農業を見て、いろんなことを発見して、発信していただくことで、改めて海外から日本の都市農業としての評価を受ければ、農家それぞれの農地に対する考え方、これも非常に広がりを持って、また深くなってくるのではないかと。またそういうことが、今後の相続においても、なるべく農地を残していこうよというような考え方にもなってくる可能性もあるので、ぜひ、海外の方々に練馬の都市農業を見ていただいて、海外から農と住が調和した町のすばらしさを発信していただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいいたします。

## 委員

- ・ 農業体験農園 2 軒目ということでやっています。
- ・ 練馬の名物として、農業体験農園は発展してまいりました。今回の都市農業サミットがきっかけとなって、この都市農業サミット、大変期待をさせていただいて、ぜひとも成功に導いていただきたいと思っているんですが、一つ、レガシーが必要ではないかと。それは形に残るレガシーではなくて、やはり練馬という都市が、大都会が農業と共生していく、つまり残っていくということではなくて、積極的に共生していくモデルになっていく。それが例えばですけども、今日、区内の農業者のお集まりのほとんどの皆さんがマルシェに加わっているんですね。やっぱり練馬では JA を中心として、組合長おいでですけども、直売所が活発に展開をしています。さらに加えて、顔と顔、フェイストゥフェイスで関係をつくっていく、交流をしていく。例えば、宮本さんのマルシェであったり、加藤さんや野坂さんのナイトマルシェであったり、山口さんの Best Dishes も素晴らしい活動をしていますし、うちの家内も練馬で女子マルシェという女性ばかりのマルシェを展開しています。練馬区主催の練馬マルシェも行っているわけですから、フェイストゥフェイス、いろんな地域の方々、そして商工の関係の皆様、そして農家と一緒にいいまちづくり、豊かな暮らしをつくっていく、そういった姿勢のもととして、交流の場としてのマルシェを一つのレガシーにしていけるのではないかと。さらに食育だったりそこに付随して、いろんな世界に一つの存在感を出せるような都市と農業の関係ができるのではないかというふうに期待しています。
- ・ そして、さらなる個人的な期待なんですけども、きのうも NHK を見ていましたら、1 億人の人たちが農村から、貧しい農民が都会に出てきて、スラム街に住んで、労働力として、ある意味では下等に扱われ、そして必要なくなればまた農村に帰る。中国の農村を足場にして豊かな経済世界をつくらうとしているわけですね。やはり、常に農業や農村は今までの歴史の中で足場にされ、社会の豊かさの道具にされてきましたけども、そうではなくて、やはり農業そのものが、これからの地球の中に共生してしかるべき存在として、当然、食糧の供給ですから、そういった存在としてあるべきかなと。
- ・ 私は最後に、いつも思っているんですが、広辞苑を引くと、農業、百姓は田舎者として罵っている言葉と、大きな辞典には今でも書いてあります。農業は本来、命と自然を慈しみながら、人々の生きる糧をつくる仕事であると。やはり日本の大事典の中にそういう言葉を加えていきたいな、それがこの都市農業サミットの先の私の夢でもあります。以上です。よろしくお願いします。

## 委員

- ・ 練馬区が今、非常に農業について応援をしてくださっているのはとても感じておりまして、東京都全体を見渡しても、実は、行政によってはあまり農業を応援してない自

治体もありまして、周りの方からも練馬区の農業いいよねと言われてます。

- ・ このサミットの開催のねらいということで、3番目に「都市農業に対する誇りと意欲が高まること」となっていて、我々後継者が、都市農業は大事だよと外から言われても、結局、都市農業を農家が続けなければ都市農地はなくなって、農業はなくなってしまいます。我々の若い後継者の中に、意欲と誇りというものが、それほど周りから言われるほどはまだまだ高まっていないというのは現実でして、私自身も日々仕事をしながら、実際、どう親の相続を乗り越えて、どう農業を続けていくんだっていうのは日々悩んでいるところでありまして。ですから、サミットを通して、後継者が、練馬区で農業ができるっていう意欲と誇りがあって、当然、相続を乗り越えて農業をやっていくんだと、その方が仕事としても楽しいんだと、そういう思いが後継者に伝わって、練馬区の農業が残っていくようになることが、サミットの目的の一つに書いてあることを私は重点的にしていきたいなと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

#### 委員

- ・ 練馬区で農業を2012年に始めまして今4年目に入っているんですが、やはり実際、今まで外の世界で働いていて、なかなか練馬のことはほとんど知らずに、ぶっちゃけて言いますと、ブルーベリーが練馬で盛んということも知らずに農業に入ってきたぐらいの知識度で入ってきました。やはり4年間やっていると、ほかの22、世田谷は除きまして、ほかの区と比べても、まず農業があるということ自体も特異なことであると認識したことと、実は練馬区に70万以上の人が住んでいまして、結構飲食店さんや、お菓子づくりですとかいろんな特技というか、手に職を持っている人が多いということもこの4年間で気づきました。
- ・ 私自身は農業を、シンプルにおいしいものをたくさんの人に食べてもらおうと考えたときに、どうしても個人で販売するのももちろん大事だと思うんですけども、地元の飲食店さんとかと連携していると、結構変わった作り方を野菜で作ってくれたりして、石神井公園でしか食べられないような野菜の料理ですとか、そういうレシピなども考えてくれています。そういう意味では、サミットに対する期待でもあるのですが、やはり農業と同時に、そういうおいしさを練馬で食べられるということのおいしさ、都会に行って豪華なディナーを楽しむのもいいんですけど、たまには石神井や大泉や練馬で降りて、その場でしか食べられないような野菜の料理を食べてみるというようなことをたくさんの人に望んでもらえたらなと思っています。

#### 委員

- ・ 今日1日休みをいただきましたので、午前中は援農ということで、お手伝いをしてきたのですが、その方がご高齢で身体を壊されて、なかなか身体も思うように動かない

ということで、農の学校の方でも重点的にお手伝いをしている方です。ですので、高齢化ですとか、そういった問題について、こういった市民が参画してサポートができるのかみたいなところが、日本は高齢化が一番進んでいると思いますので、何か具体的な事例を世界に発信できればと思っています。

- ・ あと、その農家の方の身体が不自由なので、本来もっと大きな畑を持ってらっしゃるんですけども、なかなかそちらまで手が回らないということで、逆にそういうところを市民が参画して耕すことによって、フードセキュリティを維持・向上することが考えられます。具体的には、ボランティアを前提で考えていますが、あまりコストをかけず、そうしてでき上がったものを、子ども食堂ですとかそういうところに供給し、貧困の問題など、そういう社会的な問題の解決に向けて活用できたらいいのかなと思います。そういったところは、コミュニティガーデンとして海外で先んじた事例があるかもしれません。
- ・ 「世界に習い、世界に発信」、そんな形で何かこういうサミットを機会にお役に立てればと思っています。

#### 委員

- ・ 私の分類が、区内大学になっておりまして、区内にある大学は、武蔵大学、武蔵野音楽大学と私ども日本大学の一学部であります芸術学部だけです。全部、たまたま江古田の方にありますので、専門的なことも含めて、直接農業と関わるというよりは、恐らく大学、つまり大学生、若い人たちに向けてのこれからの都市農業のアピール、それから都市農業の楽しさとか魅力を伝えて、どんどん後継者とまではいなくても、都市におけるサポーターを少し発掘するようにと、多分そういうお題をいただいて、ここに区内大学という分類があるのではないかと思います。その部分に関しましては、一生懸命全うさせていただこうと思っています。
- ・ たまたまですが、私はデザイン学科の所属でして、皆さまは多分デザインというと、コンピュータに向かって何かつくってるってそう思われがちだと思うのですが、最後の部分はそうなんですけど、このごろのデザインは、デザイン思考といいまして、もっとその前の段階からやるんですね。一つの物事、つまり、今まではモノの外観を決定することがデザインだったんですけど、今のデザインは、コトとか情報も扱います。ですから、何かに対して、この中でどういう問題点があるのか、その問題を自分で探してきて、その問題提起をすることと、それに対してデザインの力で問題解決をする。そういうことを主に今、大学では実際教えております。そういうもののわかりやすい例としては、簡単に言うと、私の専門はグラフィック系ですので、地場産業でできるものですね、特産品のパッケージとか、あるいはポスターとか広告とか、そういうのでは今までいろいろ江古田校舎のほうでも、所沢にも校舎がございますので、所沢のほうの名産のサトイモの焼酎とか、いろいろお手伝いをしてきたんですけども、今

申し上げたいのは、もっと大きな括りで、もしかしたら学生をうまく動員して関わられる。実は、今年の夏に練馬区ではないんですけど、江古田（えこだ）じゃなくて江古田（えごた）、中野区になりますが、江古田の森っていう最後の大規模土地開発で、UR と住友不動産が物凄い大きな分譲マンションを造る。中野の方なので足場が悪いんですね。そこで地元の大学生に何かそこを付加価値をつけたトピックスを何か考えてくれてという依頼がありまして、夏休み使って、3年生3チームぐらい使って、そこを売り出すというか、そこに対しての価値をつけるってというようなことをずっと授業内でやらせていたんです。それは非常にこちらも最初のことだったのと、最後のプレゼンテーションは、本当に UR の方とか住友不動産、それから間に入っていました読売広告社とかたくさん本当のプロの方がいっぱい来る中で、大学生にプレゼンテーションをさせたんですけど、結果から言うと、非常に面白い展開になりました。その体験も含めて、例えば、農業サミットってことではあるんですけども、農業というか、練馬区でやること、それから若い人が農業と関わること、あるいは今のいっぱいお話があったマルシェ、あるいはそこでできてくる農業製品をどうやったらみんなのところにも広く、すごく魅力的に行き渡るかとか。教育的立場からいっても、随分、面白そうな展開が可能だなと思ひまして。

- ・ それで前回、実は、浅井課長ともお話をしたんですけども、サミットの前年のイベントの年ぐらいから、少し学生を使って何か面白い仕掛けというか、そういうのができないかなと考えています。専門外なんですけれども、専門外の立場で違う視点で、何か考えられることとということも考えております。それから、私も不勉強なので、ここにいらっしゃる諸先輩にいろいろまた教えていただきながら、サミットがうまく成功するように少しでもお手伝いできればと思っております。よろしく願ひします。

#### 委員

- ・ 西武ホールディングスという会社は、西武グループですね。西武鉄道、西武バス、としまえん、あとは駅ナカの商業施設など、様々な分野で皆様方にお世話になっております。この場をお借りして感謝を申し上げます。中でも西武鉄道は、1915 年の3月 16 日に池袋・飯能間を開業して、ちょうど今年の春、2016 年に 100 年を迎えまして、皆様のおかげで 1 世紀を迎えることができました。歴史を紐解くと、私たちはあまり農業と関係がなかったと思っていたんですけども、肥料の輸送、戦時中、肥料輸送をしていたということで、西武農業鉄道という名前で、一時期、会社の歴史を刻んだということを知りまして、そういう意味でも、多少なりとも農業の皆様とも関わりがあるのかなということを感じているところでございます。鉄道事業というと、かなり安定的な事業かと思われるとかもしれませんが、やはり少子高齢化の波が訪れていまして、黙っていれば多分、沿線の価値が徐々に下がってしまうのかなと思ひま

して、私たちとしては、グループ内外の皆さんと連携しながら、街の魅力というものを発掘したり発信したりして、他社よりもより魅力的な街になれるように、今ようやく取り組み始めたところでございます。特に練馬区の皆様とは、ここ数カ月いろいろ話させていただきまして、ちょっとずつ連携の種が生まれてきているところでございます。そういうことでいろいろとお世話になると思います。

- ・ あと、ちょうど 100 年迎えるところで、今後の沿線をどうしていきたいかということ社内を議論したところ、あるべき姿ってというのがなかなか決まらなかつた。都市部もあれば自然もあって、あとは仕事も遊びもできる、暮らしも観光もということで、いろいろな側面があるのは、私たち西武鉄道の沿線からというふうに改めて定義づけまして、「あれも、これも、かなう。西武鉄道」という名前で発信をし始めたところ。振り返ってみますと、練馬区さんの中を見ると、まさに今のキーワードで、都市もあれば、農業、緑もあると、お仕事もできれば、遊べるような施設がいっぱいあって、暮らしも観光もかなうということで、まさに西武沿線を凝縮したような街かなというふうに思っているところでございます。
- ・ 前置きが長くなりましたけれども、このサミットについては、私たちの使命としては、まずはしっかりとお客様、来場者の方を輸送すること。あとは駅の媒体、あとは電車の広告など、最近 Web がありますけれども、そういう私たちの発信ツールを通じまして、このイベントをしっかりと PR していくということ、この二つが私たちの使命だと思っていますので、できる限りの盛り上げ、協力させていただきますので、今後ともよろしく願いいたします。

#### 委員

- ・ 国としても、都市農業振興基本法、基本計画を策定して、制度検討等を今行っているところでございます。練馬区は近くにあるということで、わからないことがあったらすぐに聞けるという、すごくありがたい関係をつくっていただいています、本当に感謝しています。このサミットに向けて、国としても協力できることがあればどんどん協力していきたいと考えておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

#### 委員

- ・ 私は、東京都に入りましたからは、ほとんどずっと農業行政をやってきておまして、都市農業に初めて出会ったのは、昭和 59 年で、昔は農林水産省の事業というのは、市街化区域には全然なかったわけなんですけれども、このときに、昭和 59 年に初めて東京都に都市農業事業を組み立てました。それ以来ずっと都市農業に関係しておまして、特にバブルの昭和 62 年ぐらいに、東京の農業というのは「本当にいらないんだ」というようなことまで言われた時にですね、「一体、都市農業というのはどうなっているんだ」ということをよく聞かれました、初めて農家のアンケートと航空写真を撮

りまして、実態調査をしたんですね。そうしたところ、初めてわかったんですけども、都心に近いほど、やはり素晴らしい農業をやっているっていうのがわかっております。区部それから多摩地域の東側とかですね、それがだんだん西のほうへ行くほど、比較的粗放的な農業と言うのか、そういうふうになっているということがわかりまして、都市農業というのは大切なことだと。特に、あのころは「農地を全て宅地化しろ」というような話で、どこまでできるんだというような極端な話も出まして、航空写真と地図を見ますと、環七の内側あたりまでですと農地は、まだ少ないんですね。ですので、「都市として線引きするなら環七の内側までだろう」というような話もしたことがございます。

- ・ このような関わり方で、その後の国家戦略特区で、都市農業特区というものを国の方に提案もいたしました。これは市街化区域ではやはり相続税ですとか、生産緑地制度、これがやはりまだ農業としての制度でない。やはり改善する余地があるんだということで、国のほうに東京都を特区として認めてくださいということを言ったわけがございます。これが今回、都市農業基本法の方につながっていったわけがございます。そして今、皆さんご存じのとおり、いろいろな制度改正等に隣の農林水産省のほうで取り組んでいただいていたところがございます。その国家戦略特区をつくる時に、練馬区さんが、我々東京都より早く打ち出しまして、そこに都市農業サミットっていうのが入っていたんですね。それを見たときに、私、一体、都市農業サミットをやって何をやるのかな、何を目的とするのかなと考えたんですけども、ここにきてやはり都市農業サミットというのは必要なんだと。なぜかという、日本人っていうとやはり外国から来る者に対して弱いんですね。ですから、都市農業というものが海外の人に素晴らしいものだと思われれば、きっとその日本も、都市農業っていうのはこんな素晴らしいものだっていうふうに気がつくかもしれない。そういうところをぜひ見習っていきなさい。いわゆる、世界に認めさせて、日本に認めさせて、そして東京都に認めさせて、練馬区で一生懸命頑張る。こういうような取り組みをぜひしていただきたいと思っています。
- ・ 何を発信するのかというのが、多分課題になると思っております。まずは、やはり練馬区っていうのはこういう街なんだというその現状。そして、やはり欠かせないのは、歴史だと思うんですね。やはり東京の農業の歴史というのは、江戸時代からあるわけがございますけれども、明治を経て、それから戦後の農地改革等を経て、そして今に至っているわけがございます。そういう歴史をきちんと海外の人にも教えてあげる。また海外の歴史というのも我々も知っていくべき必要があるというふうに考えています。
- ・ そして、将来を通じて考える。特に、オリンピックもありますし、また2019年というラグビーワールドカップがあります。特に言われているのは、持続可能性のある環境、こういうものに位置づけまして、農業とまちづくりが持続可能性のあるものだ

いうことを明確に打ち出していただけると、オリンピックにもつながっていくのかなという気がします。ですので、ソフト面はもとよりハード面も、あと2年ちょっとしかございませんが、いろいろ今から計画して、先ほどの市民農園の構築じゃないですけども、どんどん作っていただければいいかなと思っております。東京都もいろいろご協力いたしますので、ぜひよろしく願いいたします。

#### 委員長

- ・ どうもありがとうございました。せっかくですから、事務局の方にも一言ずつ思いを語っていただけたらと思います。

#### 事務局 専門調査員

- ・ 練馬区の専門調査員という役割で参加しております。私、つい先ごろ、都市農業が、街の豊かさの指標になるんじゃないかというふうに考えて、都市に農地があることが街の豊かさの指標になるってというような考え方でちょっと書いたことがあるんですけども、恐らく、そういう考え方を広めていくことの情報発信性の高いチャンスとなるサミットになることを事務局としてお手伝いしていきたいなというふうに思っております。

#### 事務局 都市農業担当部長

- ・ 私は、この部長を担当してちょうど半年経ちました。担当するまで、練馬区の都市農業ということに関して、全く理解が足りなかったなと思っております。もともと長野県出身で、高校まで休みの度に農業を手伝わされまして、非常に厳しいイメージがあり、農業というところがすごく重かったんですね。練馬区のことをよく知りもしないまま抵抗感を持っていた。4月以降、実際にいろいろお話を聞かせていただいて、また現場も見させていただいて、地方の農業と東京の農業の違いも含めて、工夫次第で夢を持てると思いますか、まだまだいろいろ工夫ができる分野なんだなというふうに思いました。実際にやられている方々のつらさとか、あるいは、地道な作業というのはそう変わるものではないと思いますが、都市農業の魅力と可能性を実感しています。そのいい例が、まさに今、この練馬区で行われているという、非常に大きな驚きと喜びを感じております。私と同じような感覚でいる方がたくさんいると思いますので、世界都市農業サミットでは都市農業の魅力をどんどん広げていきたい。その可能性もたくさんあるかと思っておりますので、ぜひご協力をいただければと思います。お願いします。

#### 事務局 都市農業課長

- ・ 先ほど、映像でご説明いたしましたけども、この練馬の中に今、大体220haぐらい農地があって、実は昭和21年には、この10倍ぐらいの農地がありました。ただ残って

いるところは物凄い力を持っているということ、感じています。樹林地も残り、そして農地も残り、実はそれは残ったということじゃなくて、必然的に一つ一つに物語、歴史があって残っているんです。そういう樹林の持つ重み、そして農地が残った重みがあります。そこを耕して、それで農産物をしっかり区民と都民に供給してきて、そのどれもが、すごく難しい時代、高度経済成長もあって、またバブルの時代もあって、都市計画制度もいろいろ締めつけられる中で、新しいことに挑戦してくれた先人の皆さん、農家の皆さん、樹林や農地をお持ちの皆さんの努力があったからこそ今の姿があると、本当に街の農地を見るたびに思うときがあります。それをしっかりサミットで発信しなければと思っています。先ほど、委員の皆様から一つ一つ、世界を視野に入れた提案と、またそれをどうやって発信するかというツールのご意見をいただきました。そういったことを本当にまとめて形にしていくのが、私ども事務局だと思いながら聞いておりました。お願いすることは本当に多いと思いますけれども、お力をいただきまして進められたらなと、そういうような思いを持った今日の委員会でした。

#### 事務局 都市農業課 計画調整係

- ・ 今回このような形で農業者の方を含め、いろいろな事業者の方、それからいろいろな分野の方とお話しできたことをうれしく思います。私は世界都市農業サミット、一番の目的としては、自分のような同世代の人間も振り向かせることができるかなと思います。先ほどおっしゃっていただいたように、「世界で」っていうこのワンフレーズだけで、振り向いてくれる若者も数多くあると思います。また、区役所の中でも他の部署とも連携し、同世代とも都市農業という点でつながっていけるかなと思っております。ぜひ今後ともよろしく願いいたします。

#### 事務局 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株)

- ・ 私どもはこういった国や自治体様の受託調査のお仕事をさせていただいておまして、普段は全国の農業分野の方のお手伝いをさせていただくことが多いものでございます。全国の農業などを見ておまして、いろいろ四苦八苦している現場を見ているのですが、今回、特に練馬区の都市農業の現場を拝見させていただいて、都市農業と一括りにするのではなくて、一つ一つが具体的なものを見たときに、全国のあらゆる農業の目線から見ても非常に勉強になるというか、参考とさせていただく視点が非常に多いかと思えます。今回の世界都市農業サミット、世界に向けて、また東京に向けてというお話が先ほどありましたが、今回は都市農業になるんですが、ほかの農業の方にもぜひこれを見ていただきたいというふうに思っています。これから2～3年かけて、恐らく、さらにまた実験的な創造的な取り組みがなされていくと思うのですが、非常にいろいろなものが間近に見ることができる現場というのを皆さまに見ていただいて、これからの新しい道筋というものの一助になると思い、これは素晴らしいもの

だと思っておりまして、そのお手伝いを精一杯頑張らせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

#### 委員長

- ・ どうもありがとうございました。私、先ほどちょっとご挨拶させていただいたので、改めてで恐縮でございますけれども、最後に一言お話しします。
- ・ 私自身、今工学部で教鞭をとっている教員ですけれども、元来は農学部出身でございます。大学を卒業したのがかれこれ 30 年ほど前なんですけれども、私の学位論文は、まさに都市農業に関する論文で、それで学位をもらったんです。当時は言うまでもないですが、「バカじゃないか」と、「何でそんなことをテーマに論文書いているんだ」というふうに随分と周りからも言われた、そういう時代でありました。論文等を学会誌に書いたりしていても、都市農業のことなんかを書く人が他に全然なくて、随分と肩身が狭いというか、周りからいろいろと言われるような立場だったんですが、30 年経過してみて、全く世の中の風向きが変わったということに改めて驚いている次第であります。先見の明があったっていうふうに言う人もいるんですけど、別に先見の明があったんでも何でもなくて、たまたま 30 年前にそんなことを始めていたというだけに過ぎないんですが、随分変わったなと感じている次第です。
- ・ 歴史的なことということが幾つか皆様方のご指摘の中に出てまいりましたけれども、教科書的といいますか、大学の講義みたいな話になって恐縮なんです。ヨーロッパの都市って日本よりもはるかに高緯度でございます。雨も少ないですし、気候帯からいうと、その多くが冷温帯というところに属しておりますので、まずそんなに野菜がつかれないんですね。ジャガイモであったり、根菜類とかせいぜいキャベツぐらいで、歴史的にはそれぐらいしかつくれなかったようなそういう気候帯に多く都市が位置していると。ですので、あまり遠くから運んで来ても荷崩れしない、かつ、馬車での輸送が中心であるといったところから、必ずしも都市の中で農作物を生産する必然性がなかったと思うんですね。
- ・ 一方で、例えば、ベルサイユ宮殿にトイレがなかったっていう話は聞かれたことあるかと思いますが、産業革命を経験するまで、ヨーロッパの街には下水道もトイレもなかったんですね。では汚物の処理はどうしていたかという、ただ窓から捨てるだけと。それを奴隷のような階級が、朝、水とともに流すだけという処理しかしてなかったんですね。それでも何とか産業革命までは生きてこれたわけですが、産業革命を経て急速に都市の人口が集中してしまうと、どうにもそれではもう街がもたないと。大変に不潔であり、伝染病が蔓延するという状態になったんですね。その劣悪な衛生環境に対して、ヨーロッパの人たちは何したかっていうと公園をつくったんですね。公園とか街路樹をつくって、それで労働者の衛生環境の改善を図ろうとした。
- ・ 一方、日本の都市はといいますと、今のヨーロッパに比べるとずっと温暖でして、雨

も多くて、モンスーンの気候下にありますので、野菜をつくるとき、いろんな野菜が作れる。そのかわり、簡単に腐っちゃうと。しかも荷車はあまりございませんので、基本的に人が運搬することが前提になっていると。さらにヨーロッパの都市と同じように汚物を処理しようとする、当然のことながら、あっという間に伝染病が蔓延するわけですから、汚物は常にそれなりに処理しなければ、街の衛生環境は保てないということで、結果的に農地が街の中にできて、それが短い距離の中でもって、荷崩れしないように、様々な農作物を供給するとともに、都市の汚穢を肥料として受け止めるという、今流で言えば小規模な循環システムというのがここででき上がっていったということですね。

- ・ つまり、何が言いたいかというと、日本の都市にあっては、公園ではなくてむしろ農地があるっていうことが、都市の機能を維持していく上で必然だったということだと思ふんです。そういう日本の都市のありようを、もう一回私たちが評価し直す必要性があるのではないかとこのように私は考えております。そういう観点から日本の都市の農業ってこののを見ますと、世界的に言うと、これはもうスーパーハイクオリティなんですね。考えられないような高品質なんです。先ほど武田部長も都心に近いほど素晴らしい農作物があるとおっしゃってございましたけども、まさにスーパーハイクオリティ。これを私は、例え話として、下町ロケットと一緒にないかと申しております。日本の下町の町工場が、NASA が部品を買いに来るような超高性能の部品を作っているというのと同じような、そうした品質のものを日本の都市は農作物についても作っているというのが事実なんではないかと思っております。世界中どこを見ましても絶対にこれだけはないと断言して、多分かわらないと私は思っています。
- ・ でも一方で、日本の都市の農業に海外から学ぶものがあるとすると何なんだったかというと、これは宮本委員を前にして大変恐縮なんですけど、あるいは先ほど森先生もご指摘になったことなんですけど、例えばレストランに例えると、ただおいしい料理を出せばそのレストランが流行るかっていうと、恐らく、流行らないんだと思うんですね。要するに、コンセプトとして、まずその街でレストランを開業するならば、どの種のタイプのレストランが必要なんだろうかと。非常に客単価の高い高級路線に行くのか、もっと庶民的路線に行くのか、出す料理はフレンチなのか、あるいは和食なのか、中華なのか、いろいろなコンセプトをマーケットニーズを詳細に検討する中から、まずは明らかにしていくと。次には、コンセプトが決まってきたらば、店構えどうするんだ、内装どうするんだ、どんなシェフを呼んでくるんだ、さらにはお皿とか食器類どうするんだとか、こういう話がコンセプトに従って一本筋が通るようなものできていったときに、初めておいしい料理をおいしいと言って食べてくれて、それなりにはやるレストランになっていくんだと思うんですね。ということは、つまり料理を出す以前のところの、まさに森先生ご指摘のようなコンセプトメイキングのところ、ここが残念ながら日本は、都市農業に限りませんが、全般に弱いんじゃないかなとい

うふうに思えてなりません。例えば、iPhoneのような電子機器類も、純粹にその製品の性能だけでいったら日本製のほうがよっぽどいいのに、日本製は結局売れなくて、アップルに全部取られちゃうっていうのは、やっぱりその差なのかなと思うんですね。この辺は海外から私ども学ぶ点が多分にあるのではないかと私は思っております。

- ・ ですので、スーパーハイクオリティな作物がつかれるっていう事実、これは世界に誇っていいし、どんどん世界もまねしてくれと。でも一方で、我々が学ぶとすればソフト、そういった辺りをこのサミットを通じて、お互いにギブアンドテイクできるようになっていくと、私どもだけではなく世界にとっても、やはり練馬区の都市農業って大変に大事だと言っていただけになるんじゃないかなと思っています。というのが私の想いでございます。突っ込んだ話というのは、次回以降ということになるのかなと思いますけれども、今日のところは、以上のような形で閉めさせていただければと思います。
- ・ 何かここで再度、ご意見とかご質問とかございましたらお受けしたいと思いますけど、いかがでしょうか。よろしいですか。
- ・ それでは、その他として、事務局のほうは何かございますか。

## 5 その他

事務局 都市農業課長

- ・ それでは、第2回の日程です。1月11日か1月16日を基本に考えております。個別にお声掛けしますので、どうぞよろしく願いいたします。

委員長

- ・ どうもありがとうございました。委員の皆様から何かありますか、よろしいですか。
- ・ それでは、議題は以上ですので、閉会とさせていただきます。では、事務局。